

Q11

授乳期に風しんワクチン（もしくは麻しん風しん混合ワクチン）を接種すると、乳汁中に風しんワクチンウイルスが排泄されると聞きましたが、乳児に影響はないでしょうか。また、次の妊娠に備えてなるべく早く風しんの予防接種をしたいのですが、分娩後どれくらい経過したら接種が可能でしょうか。

A

米国予防接種諮問委員会（Advisory Committee on Immunization Practices：ACIP）の報告によりますと、風しんワクチンウイルスは乳汁中に排泄され、母乳で保育される乳児に一時的に抗体産生が認められると報告されています。しかし、乳児は無症状であり、抗体価も低く、かつ、一時的であってこのような形で乳児に風疹の免疫を与えるには至らなかったとされています。分娩後早い時期にワクチン接種を受けても、そのために授乳中の乳児に明らかな風疹の症状があらわれることはありません。（参照 p14, Q10）

また、妊娠中の検査でHI抗体価が1：16以下であった場合は次の妊娠に備えて出産後すぐあるいは1カ月健診等の出産後早期のワクチン接種が望めます。米国では風疹感受性者に対して出産後入院中の接種が勧められています。わが国でも妊娠中の検査でHI抗体価が1：16以下であった場合は、出産直後のワクチン接種が現在厚生労働省研究班を中心として始まっており、安全に接種できたことが報告されています（Okuda M, Yamanaka M, Takahashi T, et al.: Positive rates for rubella antibody in pregnant women and benefit of post-partum vaccination in a Japanese perinatal center. J Obstet Gynaecol Res. 34(2):168-73, 2008.）。